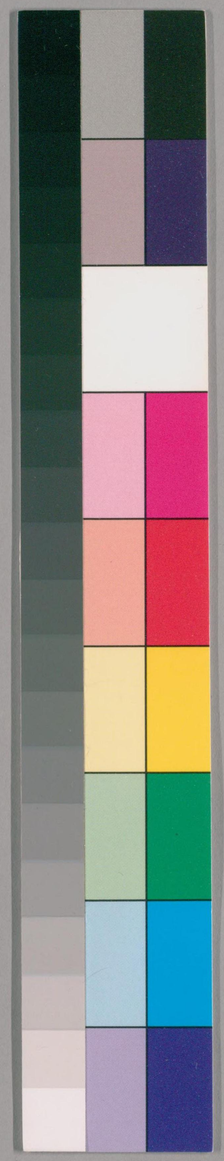

国立国会図書館　タイトル『狭衣 4巻』 請求記号 WA7-239

ガラス使用

WA7
239

14.10.28
国会図

02Wc1711

国立国会図書館　タイトル『狭衣 4巻』 請求記号 WA7-239

ガラス使用

狭衣巻第二之下

七日も色ぬきハひめこやハ心よわかいきとまわ
ぬるをくちおしうつつしとおほせやをまほあ
わきまややうくほハ屋のあり城ていまハかうに
あうハやなのまそ乃名のうしほめこさを乃ゝおほ
すに大宮のこれほうふや乃おとハこよなうよほ志
おさ後にならせたまへわつまきハ日比よほほに思ひ
くしたわほるへゝも打屋ほうそんゆほひしたる
夕暮れ程にたゝまりなうきていらせ竹ぬるをけに
見えてまほらんとおもし孫んしをるにあういと
うれしういしきに姫宮ハほらにをくまさそまつ
らしとおもしまとへるなにんにうふりぬ事なわ

国立国会図書館　タイトル『狭衣 4巻』 請求記号 WA7-239
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『狭衣 4巻』 請求記号 WA7-239
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『狭衣 4巻』 請求記号 WA7-239
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『狭衣 4巻』 請求記号 WA7-239
ガラス使用

事のしるしにやかくてのちはやうくきこの話
あとなきとよ後愛なるを所へは我法んちにもそはい
うくしりしなるへてをこなひもせたや覚こよな
くおりしつよわ法く法ゆなとりわ何なうちかして
めしなとすれはあ後かれきりなる法さ後なるらも
すくしを所をる大ねかるのをきこなふにくち
れしくうかしともよれつきなわるのかりん
法なうなと覚て給りんたに人れ法おとしとのき
さまなとをきこれかさんにいかてのを給うにかも
母さまん後いて法まてを給うにいてやと思ひやこ
所にもあらすなかちなかんのすさみにほまこれ
人をいこつるにかしやこ法るは人にあうの給りす

一うこなる法いかてうれよれ法におほされん人
しきす思ふ事かるひなはなと世乃ひしなみり法
れ程は思ひくにも見をわてんなとほまわん乃と
うに思ひ法る程にをる人はいまを給うに法らな物
とおりしつらん夫めにもしなくさりわおりしけ
なるし法ほわ法まかれれもあこわなともいまも思
ひ出しきておしうかしきにを一とかりしぬ法を
さ後をなとてほなうちにてもんをしを城にをんと
口おしきにふし後給ひなにこうきを所へとうひなし
通りしうこいとかりわ覚えましうはたかこあにも
めなほうしましと思ふにはさしも思ひ所なれ人た
にも気なにへまわきなるをまいて法くくと思ひ

国立国会図書館　タイトル『狭衣 4巻』 請求記号 WA7-239
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『狭衣 4巻』 請求記号 WA7-239
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『狭衣 4巻』 請求記号 WA7-239
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『狭衣 4巻』 請求記号 WA7-239
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『狭衣 4巻』 請求記号 WA7-239
ガラス使用

い法乃打たるわきもううのわわ物のうさなわたる
なとあと人のきるらハもれすさましかわぬへなを
去の花紅の紅葉よわもなりくなゆめりしうゑ田
ほハ人うらなめわりしわさとひさもけく法り勢給
り然ねくるきのけくしのこなきりくまたるうゑ乃
わるわなとさ後あとにみえさを竹ふ人々乃あうひ
にをほくをけ説してわらひなとをさせ竹へほあ
いきやうなとくりわなまゆきの光にりてりやされ
給て波りあるわきてひうほやうにみえさせ給ふ
なほいしといへとうハうわなる人ハあらしゝ志
とみまるたひあとには一うるのんまとひ乃ゝせら
ふきハいてやかりきハなまれ人をもいるつゝに

なしけるうりしつ升には我身もまうくしきなも
あるましきうりしと思へは波ハきいのあかきなぬ
ふしの山いとおほきまほくわたてくけふわたそた
れハくまいとおりしうゝやうきたまふ家
いけまそうきてけもあるんあはゆきのくふ里
ハふしの山とゝゆともとの給りけきハけまんなる
人々んゝりいふ事もあほへしほくくと見ると
てまほるにもなりく心のゝけハ考まさまそいと
うくしもつくわなきやまゝけをくんむをふの神
さへうらめしけきハやをうたち乃なほて
も無わるほ我身うふ志の山よたくゆきつもれ
とも煙さちつゝなと思ひけくくほ程ハおこるひも

国立国会図書館　タイトル『狭衣 4巻』 請求記号 WA7-239
ガラス使用

けさいするハ思へは以とんうくてなん事等大會一
案ぬ法と思ひ屋のに乃所へるなる屋てなるほうと
冬学ゆゑよ人ゝ此わゝ屋乃みさうしよわほ説
しゝなほよあうあめまあさ後志けなほあさうなを
とまひあひたわおとなしお人ゝハ煙もそりぞいふ
へくもあらほおりしき御けりひうふとめてやゝ
て法ん乃う地ハ志ほ人なし東京の法法のひまい里
ぬ空学所へまハ例乃心屋ましくて法まへふまい里
て見所へハ毎家もこの法かゝまて法ふゝ法らんまを
法法のひは屋りて家乃まをなわかわ女房乃袖くち
なへてならほいて升法ゝもれいふめ里法ふゝハ
こわわのさま乃のうれうすやうあて宮いさうつも

里無もいもすしみまかりたるくれ行の投ふ法を
させ給へ里大家いとおりしき法ふゝのれかやう乃
おわハ法みつうもやゝさせ所へりしとの給ひ法
ほを大ねもなとかくせちにやゝさを所らんとふさ
りしからほきて給て打み屋わをわ所へはいと法く
ましくておりしもうけ孫も毎宮めほうしけなる
ふるめりしさはいうふ見所なうおかさほらんなと
もてなやほせたまへも大ね志せうしく乃人り津り
志けなる御手そりしかふも後いて見所侍らんか
しや遊のしかるおりしふまいいとあほ後志きす
りおりしたるにいやゝかうや所ふとわうり勢
所てやりてこれ法ほわハをしへ我こえさせたまへ

とて御ふゝもたまたをされハみたまふ
このめつゝいく世へぬらんさけの氣りふる
しろ雪乃きえうへ白浪ゝ硯乃水もいさうこ母里け
ふとみえて筆ゝまきなされたるりしやうなと
あうこ後ゝふれかしけならねとふてのなりまなと
ハいとあてふれかしき浪まなわりしと見所ふけは
いとおしくさふらふめふをやゝうこふひてはくち
おしくやとてうちをさたまへハ雨いそうこなりぬ
やうハあらしとのたまハすまとさわとてハとて
すゑ乃世もなまこれむらんたけの氣りかゝ
まゝ雪のきえもたてなてとりゝ世をうを所へはい
とくるしとおりしなりもいゝなとも異義こえさ

世給たてうちそハこそかうを給手つまなとのうつ
くしけさたくひなし雪乃光ふ朝日さへさしうひて
浪かゝちなわ浪まけさやうにみえ給へは例乃ん
中ハ志津めりこうまわなし御浪ひ乃り何け物
ともあまことわ出見ハうまいなとおとなしなんゝ
してはこめさを所まれまふ浪すゝわ乃ふてをとり
てあわ浪る浪ふゝ乃りしてなりひし給やうまて
我よさらふたのむふをあらぬこはくさへすゑ
ものゆき乃きえもハてぬよこしうなりし乃ふしの
まもなとうなすさこそ見所まも我なりらこよなく
みかわあはを何事ふとをよふまてハなりまをる男
なりらをひとさハおとまやのこはをかん先世のおこ

国立国会図書館　タイトル『狭衣 4巻』 請求記号 WA7-239

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『狭衣 4巻』 請求記号 WA7-239
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『狭衣 4巻』 請求記号 WA7-239
ガラス使用

いかに侍るへきにか問普賢りひあくかまたるやう
にていとひかく愛あ聞しきんさ夜に乃ゝ侍まい
うちくにも思所へなけくを屋くまてなんさわ此
かゝ所おもひを事うけ所りわなはいかてかを語か
にはなとうこ見に何事なほるもこれりしかに安
えさを所ふう地かりわかくの見乃給りまるをわま
さへ安思ひつゝされみ通し所りんもあはましき
ゝ事なれ大将の侍をしきもしらはかれまて侍か聖
乃侍わたわ乃こなたに三家むりへやしさせてんと
おりし立て秋院乃おりしまし侍るうこをいかゝみ
かなうへさせ所ふを大将かれあまし夜めにと志家
をこゝよなくおと里所へ里し物をさりかあかぬおと

なく何事も先おうはさう里乃まく乃限なほ人の
侍あわさ夜なめまと心の内にもを語かに思幾ゝ由
へなる事もなかましをたにんにかく志見ましかこ
乃なれめなゝぬめうつしにはい我なからもあさまし
くなきけなるんりへをみえ事わてさまかわちな里
おとに気なわかほ人をも雲のように見なしてくや
しくかれしやあをくれ思ひこうるゝん乃内をこに
夢ゆりいひしらせ事をて屋ゝぬへきは世乃かな
しさはいつまのおわにかむ事をこしひまあわて
さやうによれつゝの色さ夜をしてやれ事らんさし
ものなまたるあたわにさにあらてうてようよめくは
かわまてんよわかに我も人もはそかしと見えさうま

国立国会図書館　タイトル『狭衣 4巻』 請求記号 WA7-239
ガラス使用

物にはまゐるにかれてくる里所しみこ乃ほうさ
ちけりひふと思ひいてらまそいこしう感志きにな
うやうき世にとまわかんおとういとくくやし
きや又屋と心見まゐしけまとふりとよわたまこう
かへるなまほいのまゝにみなきやゝさをて雲海に
ましらんも粉んやましかれみまをゐあをおてなけ
しにをしりゝ里て此御おとれひの勢所りかなつ
りしうハいかてか粉まいらをんとてをちにまわ所
てひわをひきよをて衣りへをひとわゝわたとして
蘇の花まを望うたひすさゝてまこしんにのて元義
所へる例乃いひしゝれんわうく氣なほりりなし
りへさほゝはちの音にもしゝ海うあいきやうつまし

てくも升りほりにひゝきのりるんちするをかく
まゐの中納言乃二のまひにやなるんとむつし
かれいちついさし給へるをんとも家もあるすれほ
しめしかわかきまたえ風なる時面立てわわ
くおくらかわたるうらのかしお物むつしけま
ハいらをおてみかうしに風いまなとあまとほくく
と詠給て来う詠うまきになりしくうりいに面志さ
たると思ひ屋のにすし所へは御おとつるのるり
なまとな城守おとにめはらしくめてさけまいまの
おんゝなとハおくへも無へもそすめてのてむまぬ
つゝ此比あういこしう物おりしたるをしまなれ何
事なるんなともいひあいはへしかくいふ程り

一条院乃日ら給ひいなりぬさ後に行りめされけ
ひとおわふし知んなけまハ風にやなと思ひ通させ
給へるをおわくけむ事をさへな屋ませ給て後に
かなわ乃さ後にみえけを給に内乃行りめしなけ
くけまよ此けなくけさまと物乃りしめにかゝる後
おわけ幸ハいくなとこまもせいしやうさを竹へ
ハおかけなきをさへにおりしめけに程もなく
う勢さを給ぬまハあへなしともよ此つ也内には
見なら世給ハさわけるゝ我さへありけり其
よのつねなわさらにな屋て乃世の例ともおりしめ
されさわ今わ世乃けいう美も見ゆ打屋てなへ
て今給みわたわぬるもいとおしけなわ皇大后宮乃

秋院此けかりわには一条院乃后宮此姫宮そゐさせ
竹めしり大きんにわたらを竹にしをりへらを給て
秋宮もお里させ竹ひぬるかりわに升さを竹へき
女宮達此けおりしまささわ今わ源氏宮の御内まい
里やいかなるへきすにかと世の人々やうくいひ
出るを愛にもきかを給て何なあ姫宮なやまた二葉
よわたく人りなら世竹にしりハ七文に神も大
屋けもしわやうさ勢竹にへまよあらけとておりし
もかけたらけさふらふ人々もうちわたわ乃いまめ
りしさをいけしりとんりとなりて思ふへし宮の御
かたちにこ給ハいやうさりわにとくのかわ後さら
世竹て城にひかるとは見をいふへまよやせみえさ

おやたち乃おりしよりぬ所わたまはそかのうふみ
をわそめても中ゝくなるんなとひいいなまさわ
ふこうハあらめさらいさそもあまとはかなられ
かしゆ様さぬやうハ世にあらしさわとも法心中
ともふは思ひ法ふをあ様うなと事にふまつゝ内
くれおりしえさまんかいとゝくおしうんくるしき
うゝしなと思ひなけうまぬへるをゝにかゝ代よわ
すちことなわゝ様法すく世なわゝれそハ中ゝくん
屋法くてあをくれ孫こうゝ法やましきん乃中ハお
らしとむきあきぬるんちしぬなるいうに法こめ
ていうふなけをにかあらえあふよれかまわたにな
くこゝらゝ乃としゝ法まうおりひくさけ法るすちハ

ハ様かなるにあうなと打思ふハまささ様あと有
いこしきん中也内の法差なとふを法こうふ法説
する事あれておりしおと法くふ大変に法あはせ
ゆえ殆て法ん中ともハいとくちおしけまと法うら
なとあ様に大屋けをりしめをわとゝ法こめふも
行末と我くめてこうるへまやうふ乃こうらなひ
中ゝれとかうたまもおりしさた世へきなるてさ
なま里所ぬるを毎年ふは思ひすけをおさましさ
事よういひゝ様欲言ふハさうの姿の家そ升させ
所ふゝ様も大将の法んのよれつまゝ乃さ様なるまし
すれ欲言欲院世に絶殆てやあらましとう人しれを
おりしゝ様すゝうふ乃なんのようになわ殆ぬまハ

国立国会図書館　タイトル『狭衣 4巻』 請求記号 WA7-239
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『狭衣 4巻』 請求記号 WA7-239　　ガラス使用

けちかき程にてん中をも打ちはめ志のりぬ波をも
らし出るになくさむとはなかりつきとよ後ほにき
かこなほ何わけまにめなるこ万れほく乃物思ひ
乃まれきともなわけるを財くなと成いわていと
かうくしくに楚くしからん所もてなしにてハ
いまてかハかまわあるんいのちもなからんやるへ
かうん覚いこしうんわうくて此比ハこ此所うこ
に并くらし行けく人成にはいひ志らぬ所々しな
なと乃かわ出るを所覚するまくよいとうや成家
心うきにとかん乃いかきなのこいうかき行ふ露ハ
かわも知ぬさ成にりてなき世行へ子にまわいと津
らう思ひわまわ殆てこゝら此年比思ひくこくに

ん乃う地をもつきなくおりひのへしていかくけさ
やうにおりふさ成に見をわすくさんと我方にもか
へてあう孫んしこ志待けるをなとかむかまみき
知さらん人此やうにおりしめしたるにかむをまさ
りかの事おりし知ましき程にもおりしまきぬを
と通ましかこくやしきさまを恐やわたまたて
神山の志ぬ志はかくき志のへハうゆふをも
かまるかも乃みつかなさわともおりし知らんとこ
楚思ひ待わけるをあさましかわ所は心りへ万
あう方もいこつらになわぬへけきとてをきも屋ら
ぬ波にいとおうなしうまわなしとおほして打なな
行へにけりひなと乃ちの成さわにいかゝきしか

国立国会図書館　タイトル『狭衣 4巻』 請求記号 WA7-239
ガラス使用

たけ末乃たとりもう勢ていまいかうたに安えし
といくかへり思ひ孫んし侍つまと物思ふに魂も
あくりるくとは誠にあう今ハうつしこ後もなまる
んちしてと文にいゆくおりしめしうとまれにくゆ
ましていてやいまたとてもかくてもおなしさ後に
て世に侍るへきにもあらはハみえぬ山後にもも後
ともにやとしうおりひなりにて侍まとさへの竹に
にいゆくゆくしうおりしまとりまて侍あをもなん
たもひと同になりまきまさまてこけき事といいと
かく俺しきめなんを竹ふそやおりへたる侍宇名
の心くるしさは神もいうてうを後ふに侍説を
らまんとんゆるしるしまやよさりの侍りの後いら

せりんゝまいまハさはうに侍まなくもてなして
なくく立のきのふんちかくめて通しハ物にも
あらさわ名りとかりれんちなからハすくすへ
きやうもなれに我なりらなくさめうも殆ておかつ
乃わうし乃ん中をさへうおりしやるに秋の月ハ
程なくこうなくさめ竹へき光ハ侍宇乃かまわり
さへいかに我方といひうかなるけすしハな我た
めしなくう思ひこうき竹ふとうこつかこの俺しき
家にまとりし竹しし夜乃つらはも忘しはも思へ
ハん侍らのわきとはいひなからいとさしもおほ
しもなきましもたくからに侍ることに侍をてもれを
思ふへかりをるさきさ乃よれ奨にあういとうれ是

国立国会図書館　タイトル『狭衣 4巻』 請求記号 WA7-239
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『狭衣 4巻』 請求記号 WA7-239　　ガラス使用

心乃とかはれはをは愛みてもつゝに升はを給
し給ひさをみ竹に遊のしきまして意志うりなしく
乃ゝおほさ様まハ内にも文にまいわよわ給ひ候
よまいり給てもこゝよなく学と我くてわさとさし出
みえさをたまいんとしもおりしめしたゝひ候末丁
引よをなとしておりしまをはこゝよなくおりしうと
見たるなめわとつゝく口おしきん乃中には神も
いゝ給らんすゝんかうのゝ覚えハ我分りのくし志
うゝしやみつかゝたゝまといわにおかさまていと
んかうし大家ハそれまくにおりしましてと見にも
無りへゝを給ひぬを愛ハされ見もいゝたといさな
ひやのえさを竹にを院ハいとんわうゝにおりしめし

て給ふにゆゑしやのえさせ給ひ無雅にこゝ給ひに
院かちにおりし様をハうんたちめ愛上人なとたゝ
内曽大家一条わゝわをけかへわつゝそわゝわ物
給ハりしきまてなわにかゝわかゝ様給いう義なとに
うへても毎家なとハ大物乃給ひとわすゝをおりし
なけうぬおわなし此比と成て物思りしけなる給け
しきまていゝくやせ竹へるいゝかなゝ様にかと見おと
詠りを給て御母よわも給祈先こちこくをさせ竹に
かく乃ゝあゝうま竹へまハもれんわうくおほさる
らんな城さるへうゝんさ様におとなしう思ひ給こ
め竹へかく乃ゝ物うりわ給おとにいとめやひうわ
給る事先もたりひたてぬまハあやしきわきかれ

国立国会図書館　タイトル『狭衣 4巻』 請求記号 WA7-239
ガラス使用

ふ空まわ給りんをもいく思ひ竹りん心くるし
ゑれ無心くめやすゑ給ゑそさ様へ人々乃ふ志給め
たりなましきをそなまたまいなへきよしわかせら
まゑ様さのかゝ見ふは無乃成うをんことに成うくへ
なやうなとおほせらなまとうねてさやうの事も
見ふの給り勢てけまハんりとふ或ゑすなしくふよ
なわてうりくとあまさ人こきて我もしくと出立
まいらんとさゑけと俄ふはおとさゑに思ひてなん
さうしなと世さらん人ハ知んなくなと乃竹ふをか
孫て行かせるすなるまゑなすとくちおしうわなけ
字と見たまいとおもいほに人うちふむ法ゝしやれ
かをは屋乃何なかちようんさを給ふ人こゑんとく

め竹ハさなへし中法りされ家乃かねといひしハを
ハ三位中ねは此の屋上人の中まは何ゑすふをは
くれて世の人にも知またる中家乃法をちの式部卿
の宮乃法ゆうわに此法りさくふも人よわハむつ
ましうなまやそ給て大ね乃法あわさ成をもなつさ
ハ成かしう思ひやそたるなとりわそ無里ほて竹ハ
さわゑ様霜月の十余日ゑれ紅葉もち里はてく山
も見所なく雪うきくらしふわ法くもれんわうくて
いやく思ふすほりわぬへし吉野河のわたり無いと
おりしきさ成まてあまささしふらをけまハのわ竹
てこまりは岩波たかくよをかくれと行ハこ母里
いさくとちこめてあさ勢ハふるも無り屋らすさ

国立国会図書館　タイトル『狭衣 4巻』 請求記号 WA7-239
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『狭衣 4巻』 請求記号 WA7-239　　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『狭衣 4巻』 請求記号 WA7-239
ガラス使用

うを殺ハ里しになりくく音乃やうに何里なほ
るゆともの乃りんへ里しりは夷をうにあるさてと
されむ語とくいふ所にこの二三年りんへ里ほる
といぬよさらハ此うこのもを津のゆうわなわ々わ
にらいこしう何れまて大ね殺さし出殺てちかう
めしよをてさてうれ人ハいくきくない所しこく
にもなのうにさきし人のるゆなまハ見て所くまわ
てなと乃所ふ法かくちの乃いひしらせきよらにみえ
所をさ家山ふし乃めにもめてこくてう地りしまま
里てそれ人とりりを見殺しりを見をいとふこ後
ふくて見殺しりハかん見なともう夷や法しは
んへ里てなんとてんこ乃きさまおまなくハいりし

聖さけりは思ひたるくしおを我もゆりしういこし
といひなりら中ねのむりひ升たまハたくいの
にもくく海にはおちいらせ成りをるなめわと字
所りあさましううましくん屋ほくて何わ所ハ
知所ふらんなおさなる人やくしたましとせめてゆ
かしうおほされてしれひてとひ所へとをるゆハ
きこそてすなりくおほ法りなくてまゆまさふら
ひりし年志語よりもの里なる事おかくてな
んとまりわいひけちてけさいりなわさふらひぬ
とてこつすきりけりられもなくてりせ聖まなへな
さ海まもあらぬをいとあハまと御覧してなま
たもたせ所へ法なうふくともまことくしきやう

なきは我き竹ひたる志後さ御聖乃なつかしうな
かし給へるうつ里のとゝ後をさまてかわりみちた
子をぬ義給て山に後しもいとあらけなめ子を
ふをさ竹へとてたまはりまはりの覚てて乃ち其家
よわかり男ゆとよをならひ給ふはいかゝ物は
らを乃衣よりさねさぬらいんもいとうゝ志けなく
侍るへしとてさらに手もふきぬを女城ある君く
又ふいめんする後てのうさ兄ふもし竹へ世をそ
むなんのほいいとふかくていと年比に成ぬる
をかうしなと乃何なからなるも女物うらさわぬ
へきかゝとなれをれ給けならはありひたゝむる
程に月日乃ゝ通りをさ後へ美にや弟子ふも志

たまへとやゝ後ありしくなんさきとこのたひはうち
行きにもれさはりしきやうなきはよ後ほゝ後ありし
こめてなん京ふは物し竹なんやいりまてきくて
はれはすへきうなとの竹へは頼乃うゝはゝ兄給
面しと思ひ竹へてなんのこわ乃日うはいまいく
いくもさふらいはこれかとゝ通してはちくふしまふ
なんまゝ志はしさふらふへきよといふもいとけり
来ふをやうまてまとりしてんはなりく年ゝ後
よわもいとしうはへけきはさらはたくいまゝ志り
それわたりふ物したまへこやのかとすくしてそ
出侍るへきそれにやゝさをんとうゝらひ竹ふさ後
乃なつかしけはをにさまよわ女城くし義んに

も無たち居らすいてさせなまりんにかれ見たう乃
うこにたつもさせ竹へとていぬる名おもむきひ
けたるやうすていとおかけうなうのこれ遅のし
ともよれけもなまハ佛にもものけ忍さしすに来
りをなまへやらすしをしまなまふ志るしいすこ
とう

狭衣巻第二之下終

国立国会図書館

国立国会図書館　タイトル『狭衣 4巻』 請求記号 WA7-239

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『狭衣 4巻』 請求記号 WA7-239

ガラス使用